

議長	局長

## 委員会調査(研修)報告書

NO.

令和8年2月2日

胎内市議会議長

八幡元弘様

(報告者) まちづくり常任委員会

委員長 増子達也

まちづくり常任委員会閉会中所管事務調査 について、  
議会会議規則第110条により、下記のとおり報告します。

調査・研修 日時	自 令和8年2月2日 15:30 至 令和8年2月2日 16:50	調査・研修 場所	胎内市商工会（商業部会・サービス業部会）と議会との意見交換会
調査・研修 事項	胎内市商工会（商業部会・サービス業部会）と議会との意見交換会を実施した。		
調査・研修 出席者(参加者)	議員：増子達也、丸山孝博、渡辺宏行、天木義人、渡辺秀敏、森本将司、佐藤武志、坂上隆夫、渡辺雅茂、平井孝 事務局：佐藤一孝局長、今井孝之係長		
相手方(対応者)	【商業部会】久世正隆部会長、小野正敏副部会長、佐久間敏昭、榎本明子 【サービス部会】月岡俊輔部会長、星野富雄副部会長、須貝勝男副部会長、佐藤佳照、渡辺真美、小田実 【事務局】池田渉事務局長、鈴木邦彦室長代理、宮下航平主事		

## 調査の結果または概要

意見交換会は以下5つのテーマのもとに行われた。

- ① 人手不足と物価高騰について
- ② 胎内市の特産品について
- ③ 胎内市で事業を行うメリットとデメリットについて
- ④ 人口減少における中小企業の事業承継について
- ⑤ その他

### ■主な意見

#### ①人手不足と物価高騰について

●10年後に移住してもらえるよう今何かできることがあるのではないかと。イベントで人はくるが一過性であってはいけない。胎内市として移住などの政策が必要である。

●以前に市からの要望で外国人材を受け入れた事があるが文化や価値観などの違いから仕事に適応できる方はいなかった。ミャンマーからの外国人材を受け入れようとしたが、紹介する団体への手数料が高いことから、受け入れが難しく断念した。そのような理由から今は前向きには考えられない。実際に人手不足に悩んでいるが、人材派遣会社の利用を考えている。派遣会社の利用は、社会保険料の負担がなく、消費税も軽減されるため有効な手段である。

●毎年10月に最低賃金が更新されるが、それを機に納入業者が納品価格を必ずあげてくる。中小企業の飲食店業は客離れにつながるため原価高騰を安易に価格転嫁できない。昨年大企業は5%程度の賃上げに対し、最低賃金は6.8%増だった。とても追いつかない。我々中小企業が声を上げられる場所がどこにもない。どこかで仕組みを変える必要がある。

#### ②胎内市の特産品について

●ゴルフコンペの商品にできる胎内市の特産品がない。昔はヨーグルトなどがあり、とても喜ばれた。胎内市の業者は営業にもこない、とてももったいない。道の駅をあちこちいくが、胎内市の道の駅とくらべるとどこも立派に見え毎回残念に感じる。財源不足のせいなのか。

●「はるかなた」の作付面積は増えていない。その農家も8軒だけである。商工会の会員は作っていないので、「べにはるか」を作っても「はるかなた」とは言わない。

●特産品を作るとしてもすぐにはできない、継続して育てていかなければならない。

●農産物を売るには場所ではないと思う。農家の顔があって安く提供できる場所が大切である。長池は運営者と生産者の間で色々と問題があったと聞いている。

③胎内市で事業を行うメリットとデメリットについて

●メリットは今考えてもでてこない、デメリットは人口が少なくマーケットが狭い、内需だけでは商売が成り立たない。

●胎内市の人が胎内市だけでお金を使っても胎内市のお金は増えない。どうやったら市外県外から人が来てくれるのかを考えなくてはいけない。将来的に移住につながるような魅力発信をしなければメリットは生まれない。市報にイベント内容を掲載しておわりという事が多いが市民しか見ない。HPにも掲載しているというが胎内市民しか見ないだろう。市内の情報発信だけでは足りない。

④人口減少における中小企業の事業承継について

意見なし

⑤ その他

(商工会) 風力発電の事業者メリットは

(委員) 一般質問時の市長答弁では、建設中においては食堂やホテルなどが、建設後はメンテナンスに係わる人たちが消費活動を行うのではないかとの回答だった。

(委員) 固定資産税は初年度約10億円入ってくるが、交付税を減らされるため実質2億程度しか使えない。

(委員) 固定資産税の他、出捐金は年平均で1億7千万円程度もらえる。その内訳は、海6陸3共通枠1の割合で陸と共通枠は村上市と胎内市で折半する。使い道はまだ決まっていないと聞いている。

(商工会) 自動運転の車を使い、公共交通を強化してほしい。

(委員) 様々なイベントに出店されているが儲けはあるのか。

(商工会事務局) 毎年10月後半に行っている「胎内いいもんマルシェ」では33店が出店、市内外から約3,000~4,000人(多いときには5,000人※天候にもよる)が来場し、その約6割が市外から来ている。少なくとも普通に営業している1日の売上以上になっている。出店者は間違いなく黒字だろう。

## 調査の所見・感想

胎内市商工会は商業部会とサービス部会の両部会が出席した。

商業部会は主に小売業や卸売業に係わる事業者で、サービス部会は主に飲食店業やサービス業に係わる事業者で構成されている。

テーマは事前に周知されていたこともあり、スムーズな意見交換会ができたと感じている（ご協力いただいた胎内市商工会および関係各者に感謝申し上げます）。

### ① 人手不足と物価高騰について

人手不足はそれほど深刻な感触はなかったが、物価高騰については苦慮しているのがはっきりと感じられた。特に飲食店やサービス業は、販売価格に転嫁できていない事業者が多いとの意見があった。毎年10月には最低賃金が更新されるため、仕入れも上がる、しかし客離れにつながるため安易に価格転嫁できないといった苦しい現状を確認できた。

また、中小企業の生の声を聞いてもらえる場所がないとの意見があり、中小企業の意見を聞く場や、中小企業の活性化を推進するような施策が国や地方自治体にも求められていると感じた。

### ② 胎内市の特産品について

沢山の特産品があるのにも関わらず、実際には無いに等しいと思われている現状が感じられた。販売戦略を一から見直し、観光協会はもとより、自治体や商工会議所、農協や生産者、学校や地域の方、専門家などを連携させながら、根気よく特産品を育てていかなければならないと感じた。胎内市産の農産物や加工品については評判が良いとの意見も良く聞くので、行政においても販売戦略及び拠点または仕組みを見直し、長いスパンで補助していかねば良い結果は望めないのではないかと感じた。

### ③ 胎内市で事業を行うメリットとデメリットについて

メリットに対する意見はなく、デメリットだけの意見であった。商圈は小さく、胎内市だけでは商売がなりたないため、他市町村や他県の客をいかにして呼び込むかが大切との意見が聞かれた。

商工会委員が望む売上増や、胎内市が注力する関係人口の増加は、観光に再度力を入れることで可能となるのではないかと感じた。

まだまだ胎内市の成長はありえるのではないかと、良いところを活かしきれていないだけではないかと感じた。また胎内市独自の補助金など中小企業をバックアップする施策も必要なのではないかと思う。

### ④ 人口減少における中小企業の事業承継について

商工会の出席者からは意見は聞かれなかったが、事業承継の課題を抱えているもしくは今後近い将来考えなくてはならない事業者もいるのではないかと思う。引き続き注視したい。

### ⑤ その他

洋上風力発電における市内事業者のメリットや自動運転への期待などが議論された。

洋上風力においては固定資産税や出捐金などの収入が見込めるため、有効に使われるようそ

の用途を今後も注視していきたい。また自動運転については次世代の公共交通機関を担う画期的な技術だと感じている。まずは自動運転の先進地域を学びたいと思う。